

昭和五十五年二月一五日発行

会
報

第十二号

社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会・会報第十二号目次

あいさつ …… 理事長 石川文治 ……………	1
雑記帳 …… 副理事長 渋川澄意 ……………	2
県鍼灸師会日誌 ……………	4
第五回東洋医学系物理療法学会京都大会に出席して …… 副理事長 越本政男 ……………	4
文 芸	
随筆・人生の壺 …… 釜石 寄松 忠 ……………	7
随筆・三人旅 …… 釜石 佐々木 至 ……………	9
俳句 …………… 北上・和賀 南川 忠 ……………	10
川柳 …………… 釜石・飯田直志 ……………	10
川柳 …………… 釜石・越本政男 ……………	11
短歌 …………… 久慈・小倉栄治 ……………	11
短歌 …… 芸術祭参加作品 北上・和賀 藤田 誠 ……………	12
師会だより	
盛岡・三沢五郎 ……………	13
県北 ……………	14
宮古・中村強真 ……………	14
花巻・広報部 ……………	15
北上・和賀・総務部 ……………	16
一の関・北峰忠志 ……………	17
胆江・菊池安夫 ……………	19
釜石・越本政男 ……………	20
編集後記 ……………	22

あいさつ

理事長 石川 文治

会員の皆様にはますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

民間療法視されておった私達の鍼灸マッサージ療法も近頃では中国鍼術の進出と共に広く一般大衆に見直されて参りました。この時に当り私達自ら自覚し臨床面での効果を挙げるよう一層の努力をすることが吾吾に与えられた義務であると存じます。

五十四年度をふり返って見ますと四月には中村直氏が知事になり六月二十四日さくら会館に於いて社団法人岩手県鍼灸師会と、社団法人・岩手県鍼灸師会の保険治療を希望する会員による岩手県保険鍼灸マッサージ師会の設立があり、中村知事を顧問にいただいて発会したことであります。一步保険獲得に前進した感がありますが、中央の状況は思う様に進展せず頓挫した形です。

九月二十五日に県庁に於いて医療衛生関係の県政懇談会があり参加、社団法人設立許可のお礼を申し上げ、お願いの件として来年度岩手医大に理学療法師の養成所が開設されるに付き盲人又は弱視者でも入学出来る様お願いし、又健康保険と老人医療に鍼灸マッサージを適用して頂く様お願いしました。

十月二十七日には、仙台に於いて東北六県師会長会議があり老人医療の件、東鍼連学会の件等に付き

協議、五十五年度東鍼連総会は宮城県の当番で秋保か作並温泉での予定です。

十一月十日には三療の経営について伊藤先生のお話を頂き、今迄治療方面のみの勉強でしたが、今後は大いにこの方面も研究して実施しなくてはとり残されるのではないかと痛感した次第であります。テープが録ってありますので（お聞きになりたい方は）菅野先生又は点字図書館に申込まれると良いと思います。会員皆様の御多幸と益々の御繁栄を念じましてあいさつと致します。

-1-

雑用に追われて原稿が遅れ編集者に多大の御迷惑をかけたことを深くおわび致します。

雑記帳

副理事長 渋川 澄意

会員の皆様、お元気で良いお正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昭和五十五年にちなんでGO!!GO!!の年とか、一九八〇年代の幕開けとか、暗い世相をふきとばして、なんとかよい年にするようお互いに努力して参りたいと思います。

さて、本会に関係のあることを、幾つか話題を追ってみたいと思います。

① 鍼、灸、マッサージの健康保険取扱いは、医療保障制度の立場から、当然のこととされ乍ら日保連と厚生省の間で意見の食い違いがあつて、なかなか進展しませんが、本県では中央の動きに応じて知事との間に有利な協定が結べるようにするため、県鍼灸師会、県鍼灸師会の間で基本的な合意が出来、去る六月二十四日「岩手県保険鍼灸マッサージ師会」の発足総会を持つことが出来ました。

当日、此の会の顧問にお願いした中村県知事並びに小泉県議両氏のご臨席を得て、今后此の会を窓口として保険問題に取り組んでゆくことになりました。

役員選出では、三浦鍼灸師会長を会長に、石川本会理事長、佐藤鍼灸師会副会長両氏を副会長に、越本、三沢、猪ノ口の各氏と渋川を本会から、阿部、米田、赤崎の各氏を鍼灸師会から推薦して、理事会を構成、五十四年十二月末現在会員一一一名（本会会員六八名、鍼灸師会員四三名）が入会しています。

② 会員の多くの方々が母校として巣立った我が岩手県立盲学校は、五十三年度から三ヶ年計画で、校舎、寄宿舎、体育館など全面的に建て替えられることになり、その第一次分県校舎一棟が完成、五十四年度二学期から新校舎で授業を行っております。

-2-

此の校舎は元の校庭東側（臨床室、解剖室）のところから西側（元の体育館）に及ぶ全長八四メートル三階建ての鉄筋コンクリートで、見るからに立派な建物です。

各階とも中央に二、七メートル程の廊下をはさんで、北と南に教室が並び一階の玄関は校舎の東端北向きで、之を入ると事務室、校長室、保健室が並び一階は主に小学部の教室に当てられております。

二階は東端に小中学部の職員室があり、主に中学部の教室、三階は東端に高等部の職員室、以下、高等部の教室が並んでおります。日当りのよい南側はホームルーム教室、北側は実習教室、音楽室など特別教室に当てられております。

暖房は、電気暖房を採り入れ、自動的にサーモスタットが作動し、之までには考えられなかったよう

な文化的な建物といえましょう。

五十四年度は、元ろう学校校舎跡に鉄筋二階建の寄宿舎が建ち工事進行中、五十五年度には、臨床室など特別教室と体育館などが古い寄宿舎跡に建つことになっております。

③ 五十五年四月から盛岡市に理学療法士、作業療法士の晴眼者の養成所が開設されます。之は医療法人済生医会の経営するもので昭和五十八年三月にはその第一期生それぞれ二〇名が卒業して、県内各地の病院に就職するようになるでしょう。

このことは本校卒業生の進路に大きなダメージを与えることになりかねない問題で、関係者は今からその対策に苦慮しております。

④ 最後に本会の現状をお知らせします。

五十四年十二月現在本会会員数一八九名（内本年度入会者三名）となっております。

以上、本年度は更に事業の上でも組織の上でも強力な会に育て上げてゆく様共々に、健康で頑張ってゆきたいものです。

昭和五十五年一月 記

-3-

岩手県鍼灸師会日誌

総務部

昭和 54 年

5月13日 昭和54年度定期大会を盛岡市内金属会館七階大ホールに於いて午前十時より開催する。

6月24日 昭和54年度第一回常務理事会を盛岡市内三和旅館に於いて開催し分掌割当について協議する。

8月26日 昭和54年度第二回常務理事会を盛岡市内さくら会館に於いて午前十時より開催する。

9月10日 「全鍼連会館」設立の為の拠出金納入についての文書を全会員宛通知する。

10月28日 指導者研修会を盛岡市内さくら会館に於いて午前十時より午後三時まで開催する。
(講師・宮城盲学校教諭 渡辺一男先生)

11月11日 盛岡市内「金属会館」七階大ホールに於いて午前九時より正午まで臨床体験発表会を開催する。

昭和 55 年

1月12日 花巻市大沢「山水閣」に於いて午後一時より第三回常務理事会を開催する。

第五回日本東洋医学系物理療法学会京都大会に出席して

副理事長 越本 政男

十一月二十三・二十四の二日間に亘り第五回の日東医学会が逝く秋の紅葉の美しい古き都（京都）で開催されました。会場は京都の心臓部とも言える烏丸丸太町（まち）にある京都府立勤労会館で約八百余名の会員を集めて開かれました。

会場である府立勤労会館の周囲には、京都御所や京都市役所、新聞社、歌舞練場等があり、碁盤の目

-4-

のように見事に整った露路に入ると、昔ながらのたたずまいの商家の（のれん）が京都に来たなあーと言う実感を味わせて呉れる……

今回のテーマは、東洋哲学と医学の課題で研究発表二十三題、特別講演四題、なお特別講演は次の通り「東洋医学に於ける物理療法の正しい意義と今後の課題」芹沢勝助先生、「痛みの臨床と鍼治療のメカニズム」東邦大学教授・村山良介先生、「免疫と自然良能（自然良能と鍼灸治療）」明治鍼灸短期大学教授・阿多実茂先生、「リハビリテーション医学におけるマッサージ等徒手療法の役割」京都府立医科大学助教授・平沢泰助先生。シンポジウムは「痛みの鍼治療における遠隔操作と局所治療」筑波大学講師・長尾栄一先生、京都大学医学部麻酔科外来医長・播磨晃宏先生、大阪市立大学教授・藤原知先生。（司会者・伊藤孝氏と白島庸氏）

次に、昨年の大会に引き続いて今回も「アンケートによる肩凝りの研究第二報」の発表が筑波大学付属盲学校・佐藤謙次郎先生外一名でありましたので、録音テープの中から可能な限り記載して見ます。この発表の際に、スライドの不手際で演者もやりにくく、聴講者から、シッカリしろ等とヤジが飛んでスライドは全く役立たずとなりました。

アンケートは、四パート六七項目あって、五千枚を出し、二千六百八十九校を回収、これを整理したもの…… 肩凝りを常習性と非常習性とに分けて、常習性では、男・二六二（二〇％）女・四四〇（三四％）で、そのうち、いつも気になる、男・一八七、女・三二二、仕事に差しつかえる、男・七〇、女・一〇八、仕事が出来ない、男・五、女・一四となっています。

非常習性では、男・八一七（六四％）女・七八九（六〇％）です。これは、時々凝ると答えた人達です。次に肩凝りの部位ですが、最も凝るのが後頸部で、男・七三％、女・七六％、次に凝るのが肩上部で男女とも三八％、第三位は肩胛間部で男・二一％、女・一七％となっていますが、男女で差があるのが肩胛骨の背面と上腕部で男の六、九％、女・一四％、これは女性が荷物を持つからではないかと思われる。次に随伴症があった場合可成りの変動が見られるのではないかと調べて見る。

-5-

例えば随伴症の中の一つである「眼が疲れる」では後頸部に凝りが出ている、後頸部が最も凝る、男・七三％、女七六％とあるのを「眼が疲れる」と言う項になると、男・常習性では八九％、非常習性では八〇％、女・常習性では九五％、非常習性では八三％、肩上部では随伴症が無かった場合は、男女共に三八％が「眼が疲れる」と言う随伴症がある場合は、男・常習性では五八％、非常習性では五〇％、女・常習性では六一％、非常習性では四二％、肩胛間部では随伴症無しでは、男・二一％、女・一七％なのが随伴症では男・常習性では二〇％、非常習性一一％、女・常習性では二二％、非常習性では一五％、これに続いて肩胛骨の背面・上腕部・後頸部・前胸部の順となっていて、常習性肩凝り程数値が高く、非常習性肩凝り程数値が少ない事が判る。次に「眼が疲れる」患者に就いて、凝りを調べて見ると、後頸部・肩上部のみが凝り、他の部位に凝りはない。又、息苦しいでは、肩胛間部に沢山の凝りが出ている。歯痛では肩上部のみに凝りが出ているだけで、これは意外だった。次に吐気では、女の場合、肩・後頭・肩胛の全域に凝りが出ているが男の場合は肩胛間部に出ている。又、便秘では男の場合、肩胛骨背面に凝りが出ている。次にのぼせ・頭重では後頸部・肩上部に高い数値が出ている。又、冷え症・だるい等も男女とも数値が高く出ている。既往症では、心臓病の場合肩胛間部に女が強く出ているが、男は低い、高血圧・胃腸病も男女とも強く出ている。又、貧血は男の方が強く出ている。

以上、肩凝りは女より男が少ない事が判る。其処で肩凝りの少ない男の患者をもっと多く集めて出来

るだけ多く治療する事も、経営上有利ではないかと最後に演者は言っていました。(いずれ学会誌第五号を入手次第、許される限り次の会報に掲載をしたいと考えています。)

学会終了後の二十五日は、京都市内の観光を楽しむ。大原三千院・金閣寺・大徳寺・竜安寺……………此の日の紅葉の美しさは見事でした。カメラを手に私は、唯美しさにシャッターを切り続けました。

最後に、観光バスは鍼灸マッサージ会館に止まりました。二億円をかけて完成した此の会館は赤銅色

-6-

で正面が円形で三階建て一部四階で、一階二階は研究治療関係、三階は二〇〇人収容の会議室、四階は豪華な部屋の宿泊室が二つあります。この会館のある場所に行くには、京都駅からタクシーで五分位の処にあるようでした。吾全鍼連会長の関野光雄先生の偉大さと、京都府師会の諸先生方の意気軒昂ぶりには、唯頭(こうべ)がさがる思いでした。三日間、堀川丸太町(まち)の二条城隣りにあるホテル・ニュー京都に三泊し、ホテル暮らしのマナーを学んだことも社会勉強の一つになりました。尚、この学会には、私と佐々木至氏と三枚堂とし氏の三名が岩手県から参加した事になりました。

尚、私達は京都入りする前に、金沢観光をするために、秋田から「日本海四号」の寝台車に乗車しましたが、秋田県師会の方々にはヒコーキで京都入りしたとか……(エライモノですネ)

来年は、日東医学会第六会大会を三重県で開催する事になりましたが、吾等釜石勢も飛行機で行こうかと話しています。来年はもっと多数の岩手の会員の学会出席を希望して止みません。

(文芸) 随筆

人生のつぼ

釜石師会 寄松 忠

五月のさわやかな風に鯉のぼりが空高く遊んでいた頃、初めて釜石市の寝たきり老人ホーム清風園を訪ねた。「いらっしゃいませ」「初めまして」「これからよろしく」。このように、とても温かい雰囲気でも迎えてくれた。先生、このお婆さんはね一時々血圧が高くなる程度でお元気ですよ。このお爺さんは少し歩けますが右半身麻痺しているよ。などと、くわしく説明をしながら、遠藤さん初め看護婦さん達も寮母さん達も、誰かれとなく手も引いて案内してくれた。それ以来、毎週金曜日の午後は、清風園を訪ねることにしている。最近ではハリ治療やマッサージだけでなく、皆なで私のハーモニカに合わせて歌を歌ったりしている。

老人の皆さんは、若い時の苦勞話とか、軍隊生活の苦しかった思い出など、話しに花が咲くが、中

-7-

には、もし、今頃まで元気で居たら先生と同じ位なせがれが居たのに、戦争が憎いと思わず涙ぐんでしまうお婆さんも居る。そんな時は、思わず私も目頭をおさえてしまうことがある。車椅子、歩行器で歩く皆さんも寝たきりの皆さんも、私の鍼やマッサージで楽になれば、こんな嬉しいことはありません。これからは親孝行のつもりで努力したいと、そう思っている。私は釜石でマッサージを開業して十年位は何がなんだか解らないまま、何となく淡々とした毎日でしたが、やがて二十年になろうとしている。最近ようやく鍼治療やマッサージ師としての責任の重さが強く感じてきた。今までは、只何となく、ホ

テルや旅館で適当な話しをしながら責任のない仕事だけをしてきたような気がする。老人の皆さんが真剣に訓練している様子を知ってからは、何だかこうしてはいられないと深く反省させられた。

先輩の先生方は、雨の日も風の夜も杖をたよりに笛を吹いて流しつづけた貴重な足あとを、私は自分なりに努力したいと思う。盲学校で鍼・灸・マッサージを学び、初めの頃ふにゃふにゃした細い鍼がなかなか刺せず苦勞したことも、肩もみ練習で指が疲れたことも、今となれば懐かしさとなってよみがえってくる。管野先生や渋谷先生の温かい心のこもった御指導に感謝しながら、これからも山あり谷ありの生活を続けたいと思う。

岩手県鍼・灸・マッサージの体験発表で釜石師会の越本政男先生は、「常に鍼・灸だけでなくマッサージの治療でも、きちんとした経穴（つぼ）のおさえ方が大切だと思う」。こんなお話しをしていたことをおぼえていたのは私だけではないと思っていますが、はたして人生の正しい経穴（つぼ）はいったいどのつぼでしょうか。（三里）でしょうか。それとも（合谷）でしょうか。とにかく人生の正しいつぼをこの両手でつかむまでは、浮きしずみの激しい人生をあせらずに、手さぐりの旅を続けたいと思う。皆さんとの愛のきずなも大切にしたいと思う。

さて、今日は金曜日。いつものように午後から清風園を訪ねることにしたいと思う。楽しみに待っている老人のために……。

-8-

随筆

三人旅

釜石師会 佐々木 至

変動の烈しい天候の中にあつて、十一月二十一日は小春日和に恵まれ快よい旅立ちの日になりました。目的は、日東医学会「京都」大会に参加することです。半盲の越本師会長に、何時もおぶさる全盲の私と三枚堂さんの三人の一行で、予定は五泊六日でした。

釜石を午前十一時に出て、花巻・北上で列車を乗りつぎ、秋田に着いたのは午後七時を過ぎて居りました。駅前の大衆食堂で驚ろく程安いお酒と料理を頂きながら、居合わせた客の素朴で心暖まる親切を受け、午後十時三十分の日本海四号に乗り込みました。文字通り、日本海四号は裏日本を南下し大阪に出るのですが、私共は金沢で一旦下車して観光を楽しむ予定なのです。

真夜中にフト目覚めると、列車の騒音に混って雨の音がある。冬の日本海はどんより曇り、雪と季節風に包囲され閉鎖的心をかきたてると聞きますが、正に気のセイか陰鬱な気の滅入りを感じるのです。

二十二日は、午前七時前に金沢に着き、駅の食堂で大盛のおいしい野菜サラダで朝食を済ませ、幸い雨の止んだ駅前から四時間コースの観光バスに乗り込みました。

尾山神社や九谷焼の窯（かま）元や武家屋敷を見て、名高い兼六園で解散しました。金沢は加賀百万石の息吹きを今に残す城下町で、其の心が素直に感じられる点は流石と思いました。只、難を言えば、兼六園の食堂で昼食をとった際、食べた「たまご丼」のまずかった事。通りすがりの客とはいえ、もっと大事にして欲しいと思ったことでした。

予定通り三時前の列車で京都に向い、ホテル・ニュー京都に着いたのは午後六時でした。三枚堂さんは東京の方と相部屋、私と越本さんが一緒に、以後、三日間洋風の生活に入ったのです。

二十三・二十四日は、大会に参加し、昼と夜は馴れない街に出て食事を取りました。噂どおり、京都

の人はおっとりして居て、親切な事は他の地に見られないものが在り、例えば、一人ウロウロしている時など三度も声をかけられたし、食堂では、物を持ってくれると手を取って、さわらせて説明してくれ

-9-

る等です。ホテル住まいにホトホトあきた頃、愈々其処ともおさらばして、二十五日には紅葉で見事な京都観光に向い、三千院・竜安寺等を見て、大徳寺でテッパチ料理と言う精進料理を昼食に頂き、午後は鍼灸会館を見学して、午後三時過ぎ、無事全日程を消化しました。午後六時の新幹線のグリーン車で東京に出て、上野を午後十時前の「ゆうずる」に乗り込んだ時は、流石に疲れが出たのか口数が少なくなり、皆さん早めに床に就きました。なぜか私だけは、よく食べよく寝、お酒の飲み過ぎに気を配ったセイか、元気で旅の回顧を肴にお酒を飲み、お弁当を食べたのです。盲人の旅の楽しみは土地の人と接する事と、何と言っても各地の名産を食べることです。鱒寿司・蟹寿司・鯛寿司など、考えて見れば殆んど吾がお腹に収まった様な気がします。列車が遅れた影響で、吾が家には四時間遅れて昼に着きました。ご一緒したお二人に心から感謝して居ります。

俳句

北上・和賀師会 南川 忠

肩さすり老いたる母に親孝行

庭先のコスモス咲きて秋深し

紅葉狩り旅の疲れで按摩する

台風で傘飛び去りてドブに落ち

だんらんニコタツに入り栗を食う

吾長男得意に語るとん智謎

川柳

釜石師会 飯田 直志

現代っ子 親の意見と かみ合わず

何気なく 言った言葉に ハッとする

惜しまれる 胎児宿して パンダ死す

-10-

大酒の 酒に酔わずに バスに酔う

年金で のんびり過ごす 老夫婦

悲しみも 笑顔で接する 客商売

ア－ウーも 消えて総理の 人気落ち

好物が やたら目につく 減食中

恍惚の ただ一点を 凝視する

政治家の 汚職もあまり 気にならず

川柳

釜石師会 越本 政男

サンマ獲れ 按摩ひっこむ 番となる

閑古鳥 暗く治療室に 秋の風

先生と 呼ばれて暮れが 怖くなり

除夜の鐘 聞きつつ今年を 反省し

三ケ日 だけは忘れず 日記つけ

小者死に 大物陰で ほくそ笑み

大平 (たいへい) の 夢も破れる 物価高

短歌

久慈師会 小倉 栄治

はぐくみし雛をいとしむインコ鳥
満たされしごと今日をさえずる

インコ鳥逃げていずこにさえずるや
聞こえる如く吾はさげづむ

雛インコー羽育てし吾妻は
相手となしてたわむれいたる

冬枯れし すみれの鉢に此の日頃
緑萌えきて色鮮やけし

遼かより 船の汽笛の聞こえ来て
窓辺に寄れば初夏の風あり

-11-

唐突と「めしい」となりて二十余年
光りもとめて未だやまざり

二十三歳のとし迄見えしのあれば
数ある夢も空しく過ぎぬ

車窓より「めしい」となりて見えねども
吾細工せし家の在る街

入梅の雨降りそそぐ此のひとし
客もすくなく点書読み居り

こだわりてすべなき心癒やさんと
歌集めくれば似たる歌あり

治療客続く日父の訪れて
語ろうこと無く送る街角

朝霜の残る垣根に手を触れて
深まる秋を淋しみて立つ

明け早く電話の鳴りて吾がとれば
獣医ですかとキンパクの声す

鮭のぼる頃となりしか川の辺に
小屋建ち居りて秋を思わす

黄昏をスピッツ連れて「めしい」吾れ
川土手岸の草に触れゆく

芸術祭参加作品

北上・和賀師会 藤田 誠一

風鈴は日毎に秋の音色（ねいろ）して
陽差（ひざ）しも深く部屋に入り来る

定まらぬ秋空なれや雨の間に
妻は山家（やまが）の菊の花摘む

西陽差すこの裏山も紅葉（もみぢ）ならん
吾見えざれば滝瀬（たきせ）きくのみ

秋山を渡る夕風肌寒し
深山（みやま）にひそと無人駅あり

師の歌碑（かひ）をまさぐりにつつよみ居れば
秋の陽差しに文字（もんじ）ぬくとき

-12-

水稻は穂ばらみ期ならん今日も又
うす肌寒く夏の雨降る

暖冬のうれいたがわず夏とふに
雨降りつづき肌寒き日々

恩人の市議当選を祈りつつ
名を書き習ふ吾手さぐりに

腰痛の治療に来たるこの客は
大工なるらし木の匂いする

傘持たず外出したる妻おそし
南の方に遠雷（えんらい）の音

師会だより

盛岡師会

盛岡師会総務部 三沢 五郎

盛岡師会の現況について、ご報告いたします。

先ず、去る六月に発会した保険取り扱いをめざす、保険鍼灸マッサージ師会に既に入会している会員に併せて、更に十名の新入会員があり十八名になりました。一日も速やかなる実施が待たれる。

次に、老人ホームへの慰問ですが、十月二十一日盛岡市太田にある老人ホーム「けやき荘」に渋川会長以下八名が参加し、慰問治療をしました。また、去る三月にも繋（つなぎ）にある松寿荘へも慰問治療奉仕をしています。

九月に、会報「もりおか」第五号を発行しました。内容は、会員が直面している諸問題について、くわしく解説したほか、会員の動静なども記してあります。

会議などに出席しない為、業界の現状に暗い会員に、この会報は理解を深める事が出来たと思います。

以上、主な内容についてのみ書きました。県鍼灸師会の会員の皆様方と尚一層の友好を深めたいと思います。

-13-

県北師会

昭和五四年九月二八日記

吾が県北師会も、昨年五月を持って漸くにして成人の仲間入りをしました。即ち師会創立二十年を迎えた訳であります。その記念式典は十月二十日、市の老人福祉センター第一会議室に於いて、盛大に行なわれ、表彰者として松田惣次郎さんに賞状と記念品を贈って、師会育成の功労をたたえました。

祝賀会後も、その余勢をかって希望者でしたが、それでも殆んど全員「金田一温泉」の竹泉郷と言う旅館になだれ込み、夜の更ける迄しゃべって飲んで二十年の歩みを確かめました。長いこと伊保内・山内（サンナイ）二十キロ区間を、往療・宅療の忙がしい毎日を過していました藤原清悦さんは、伊保内に建売住宅を求め、今春早々から自宅専門に踏み切り、奥さんのヘルパー振りも宣敷く、なかなかの繁昌と聞きます。人それぞれ夢や希望が異なるでしょうが、此の夏、夢の新築がなり、而も六〇坪になんなんとする希望通りの住居が出来たと、滝沢省蔵さんは、喜びの絶頂にあるようです。優雅な生活が出来る事でしょう。

宮古師会

会長 中村 強真

広い草原で泣く一匹だけのコオロギは、木枯しの吹く季節が間近であることを感じさせ、それがまた一層淋しくもさせる今日此頃です。

私達の師会では、年のセイか、イヤ過労から来るセイか病魔に取りつかれる事が多くて淋しさを一層かきたてます。十月十日の体育の日には真崎海岸にレクリエーションを行なった訳ですが、海の幸に舌

-14-

鼓みを打ちながらも、断崖絶壁に打砕ける波の音を聞いても、何処か心に物足りなさを覚えました。皆様方もお体には充分注意され仕事にお励み下さい。

次に、十月現在入院されている会員の名前を書き記しておきます。

山口泰子さん・佐々木栄さん・加倉守衛さん。又、調子が悪くて、ずっと会に出席して居ない方は佐々

木桃子さんです。

花巻師会 行事二題

広報部

各師会員の皆様、お元気でそれぞれの分野で御活躍のことと推察致して居ります。

当花巻師会は、会長始め会員一同大過なく理療の道に励んで居ます。これも業会の方々の暖かい御支援の賜と深く感謝し、「日々是好日」明るい毎日を送っています。

さて、美しく晴れた七月十七日、会員多数の協力により石鳥谷老人ホームを慰問した時のことをお報らせ致します。

我々の前に来て両手を付き、お願いしますと深々頭を下げる老女、ドアの陰からソット覗き引き返す老人、按摩と鍼とがチームを組んで約二時間半、体みなく治療した会員の晴れやかな額には、汗が美しく光って見えました。みんなの励ましの言葉や、ジョークに笑顔を見せた人々、老後をヒソソリ淋しく暮らす老人達の胸の内が伝わり、心からよかったと思いつつホームを後にした。帰りにはドライブインに立寄り反省を兼ねて盛大に慰労会を催し、我が師会の息の合ったところを披露しました。そして来年も是非にと心に決め、ほろ酔い機嫌で我が家に向った。

天高く食欲の秋、澄み切った大空にトンボが群れ飛ぶ九月二十日、盲協と我が業会合同のぶどう狩りを行なった。広々とした農園に集まった会員の笑顔が、紺碧の彼方に吸い込まれ、たわわに実った大

-15-

粒のぶどうが、我々を迎えてくれました。店頭や食卓に盛られたものと違い、自分の足で農園の土を踏みしめ、のびあがって直にさわる感触は、又格別のものでした。農園の方々の応待に心が和らぎ、雲一つない天の恵に感謝しつつ、健全なレクリエーションの楽しさを満喫して帰りました。

師会の皆様、省エネ時代のきびしい今日ですが、誇りをもって明るく前向きの姿勢で頑張ろうではありませんか！！

拙文ではありますが、花巻師会の行事をお伝えし、業会各位の御健康と御発展の程をお祈りしますと共に、今後も宜しく御指導下さるようお願い申し上げます。

最後に一言、我が会員の吉田謙司君が糖尿病の為、温泉病院に入院しました。日頃新聞テレビ等で、成人病が話題になっているとき、我が師会にもチラリと顔をのぞかせたようです。

北上・和賀師会

総務部

今年も残りすくなくなつた。例年の事ながら師会便りを執筆する時季ともなつた。点字板をヒッパリ出して紙をセットして、イザ鉄筆を持って見るのだが、はて何を書こうかと暫し思い廻らす始末だ。それと言うのも、うちの師会ではこれと言って何もお知らせする様なことがない様な気がする。何も無いと言う事は、裏を返すと会そのものの発展性が無いと言う事にも繋ることを意味するかも知れない。

先ず、第一に、会員の高令化が進む一方で新会員が増えない事である。執行部の努力が足りないと言われれば、それまでだが？……………此の新会員を、どの様な方法で増やして行ったら良いのか……………これが吾々に課せられた今後の課題である。

第二に、諸物価の値上がり、どの様な方法で之に対処し、会の運営を諮って行ったら良いのか、之も難問である。会費の値上げと言う事も考えなくもないのだが………会員の殆んどは、高齢会員である為に、それも思う様にならず、若いフレッシュマンが少ないことも手伝って、思う様にならない始末である。いずれにせよ、新会員を増やすと言う事の前に、会そのものの体質改善を諮って行く事が望まれ

-16-

る此の頃である。来るべき八〇年代に向けて、色々と難問をかかえている当師会だが、各師会の忌憚ないご意見を頂きたいものである。そう言う事ですから、余り御報告するようなことはないのであるが、思うままを二三拾って、こちらの様子を書いて見る事とする。(一)今年度の春期定期総会に於いて役員改選をやり、南川忠氏が新会長に選出された。南川氏は和賀郡湯田町の出身、函館視力障害者センターを出られまして、以来、六年間済生会黒沢尻病院に勤め、現在湯本に開業してから、まる五年になるという当師会の中では数少ない若手ホープである。(二)秋期定期総会に於いて県の社団法人化に即応してゆく為に会則の全面的な改正に踏み切った。(三)本会に新会員として入会した白藤とく子さんは花巻の出身、神奈川県小田原市の衛生学園を出られて間もなく、北上市新穀町に開業している。(四)本会では一番在籍の長い高橋久氏は此の春に娘さんを嫁に出した。さぞ高橋さん御一家の御苦勞は大変だったろうとお察しする。この後、御長男を東京の勤めから呼び寄せて、今は奥さんと三人暮らし。今度は家の息子に嫁を貰う番だと、手ぐすね引いているのだが、その日も間もないことであろう。(五)老人ホームに六月と九月の二回に分けて、人数を二班にして無料奉仕をした。六月は和賀郡湯田町湯本の高寿荘、九月は北上市上野町の北星荘。

以上、走り書きの様にして書いて見たが、余りにも漠然とした師会だよりになってしまったようなきらいがある。当師会は、新会長以下、会員一体となって地道ながら努力して行くつもりであるが、皆様の暖かい御指導と御支援をお願いして本会の師会だよりを閉じる。

一の関師会

師会長 北峰 忠志

先ず、最初に当師会の会議・事業の内容をご紹介いたします。新年会は一月一四日美味で名高い駅前の料亭「松竹」で開催、盛会であった。始めにマニプレーションの研究会を行ない、続いて会務報告を

-17-

行ない之を承認。正午過ぎ新年宴会に移った。今回は新年プレゼント交換会として、三百円相当の品を持ち寄り、唄を出した順にクジを引き、会場は唄と笑いで新年会にふさわしかった。定期総会は、四月二二日、市内「ハチミンク会館」で開催。庶務・会計・事業・予算等を審議承認した。

事業としては、慰問治療を年二回。機会ある毎に研究会を行なう事を申し合わせた。尚、岩保連には北峰胤雄・北峰忠志・遊佐隆・小野寺由雄の四名が入会を希望した。

慰問治療……第一回目は、七月八日に東山町の老人ホーム東山荘(とうざんそう)に慰問を行ない、その度毎に喜ばれている。午後は、狛鼻溪(げいびけい)の舟下りで汗を鎮め、奉仕とレクリエーションを兼ねたよい一日であった。

二回目は、九月九日やはり同じ東山荘を慰問した。午後は、市内福祉センターに場所を変え、反省会

を開いた。その中で全鍼連会館建設募金に協力する事を承認した。その他の会務としては、日盲連の「三療就業状況」調べの回答は保留した。

保険取り扱い運動は、下からの盛り上げが必要。保険取り扱いのお膳立ては全国的に整い、吾々は箸を執るのを待っている。然し、何時になったら箸を執ることが出来るのであろうか？……これは一に政界・医師会の認識不足、熱意の不足によるものではあるが、吾々業界の運動にも問題があるのではなかろうか。前から押して駄目なら後ろと言う手があるのではなかろうか。他の医療は一層福祉的になり、吾々はこれ以上遅れる事は出来ない。運動は今こそ手を変えて強力に行わなければならない。それには老人・婦人・各種の職場・労組に理解を求め協力をお願いし、各界より保険取り扱いを要望させる方法もあると思う。この力を結集した時こそ、政界や医師会そして当局を揺り動かし、実施せざるを得なくなるのではないかと思う。一日も早く、これを全鍼連の運動として採用させ、保険獲得に全力を尽すべきだと思う。幸いに全鍼連会長関野氏は、情熱家で賢明であり、早速全鍼連会館を建設された事は全鍼連と会員の権威を高くし、法人化も必ず実を結ぶものと思う。吾々の向かう課題は保険取り扱いである。お膳も整った事であり、後は運動の如何である。全鍼連の指導者は英知を結集して、是非新たな運動を起こす様望むものである。

-18-

昭和 54 年 10 月 15 日

社団法人

岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

事業部長 越本 政男 殿

社団法人

岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

胆江師会 会長 菊池 安夫

胆江師会の近況報告書

標記のことについて、下記のとおりお知らせいたします。

1. 月 日 事業内容
5 月 ・ 定期総会開催
前年度より約 1 ヶ月遅れの間催であったが、会員 28 名中 24 名の出席を得、議事も無事に進行す。第 2 部の懇親会も盛会にて終える。
7 月 ・ 老人ホーム慰問無料治療奉仕水沢市見分森 寿水荘 立生苑
患者数 50 名、会員参加者数 20 名
大変に喜ばれて次回を約して帰路につく。
・ 石川相談役宅にて第 1 回研修会
11 月 ・ 54 年度第 2 回研修会開催及び芋の子会の施行
2. 新入会員のお知らせ
江刺市南町 6 番地 14 (TEL 0197-35-6475)
菊池 照恭
3. 永らく元会員であった胆沢郡前沢町 佐藤嘉人氏が病氣療養のかいなく、8 月に亡くなられました。
4. 昭和 55 年 5 月第 1 日曜日開催予定の社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会総会開催地とし

て、当胆江師会でお世話することになり、8階ビルの2階、200名収容の大会議室を確保しております。(水沢市表小路 翠明荘)

本会役員、会員一同、皆様の多数御参加をお待ちしております。

-19-

釜石師会

師会長 越本 政男

一九七九年の釜石は、新日本製鉄(株)釜石製鉄所と市内大橋に在る、日鉄鉱業(株)釜石鉱業所の合理化と言う厳しい幕開けとなりました。三月末には釜石鉱業所が閉山、七百余の従業員全員を解雇しました。又、四月には、約三百余名を再雇用して釜石鉱業株式会社が新設され、縮小された規模で今後三年間だけの操業と言う極めて厳しい条件で再出発しましたが、残りの人達は長年住み馴れた山を降り、又、釜石を去って行きました。主を失った社宅はガラ空きとなり、かつては金鉱で賑った街も、やがて掘り尽くされてゴーストタウンとなった風景が西部劇映画によく見られますが、それに似た姿が大橋と大松の社宅街に見られます。空家になった社宅は次々と壊(こわ)されています。釜石は人口の流出をくい止めるすべも無く、副県都の座を滑り落ち、花巻に其の席を明け渡すに至りました。この影響は吾が業界の上にも及び、患者の低落現象が依然続いています。

三月三十一日早朝、瞬間最大風速四七メートルの強風に襲われ、市内の家屋に大きな被害が出ました。又、釜石まつりで賑わう筈の十月十九日には、台風二〇号の通過により、釜石では未曾有の三三二ミリの豪雨禍の為、約六百戸が床上・床下侵水、祭りは中止となり、災害復旧に最重点がおかれたため、二日後に催された祭りは色あせたものとなってしまいました。然し幸いなことに、吾が師会の会員の上には此の二つの天災は避けて通ってくれました。

五四年度の盲協釜石支部の定期総会で、盲協や釜石師会が、各々の立場で自由自在に活動出来るよう、盲協と師会の役員を今日まで兼任して来ましたが、これを止めて盲協と師会の役員を各々分離しました。

尚、盲協支部長は佐々木信良氏、副は留畑真氏となり幹事には相の山啓子さんと寄松忠氏が就任しました。又、当師会では四月二二日の定期総会で、県鍼灸師会の役員改選期に当たるので、五五年度改選を一年延長することにしました。(会長・越本政男、副は岩間悟郎氏、幹事は飯田直二氏、上田博也氏)

-20-

九月二三日午後一時過ぎに、市内鶴住居(うのずまい)町にある老人ホーム「五葉寮(ごようりょう)」に慰問治療に行きました。比の日は盛夏を思わず暑さで扇風機をかけての治療でした。

さて愈々八〇年代の幕開けとなりましたが、釜石製鉄所が此の三月には大型工場を廃止します。五〇名の従業員が他の製鉄所に転出します。下請業界の上にも合理化が進むでしょう。更に沿岸漁業の不振とが重なって、人口の流出や不況が深刻化して、吾々には厳しい一年となりそうです。然し、こんな時だからこそ団結して頑張らなくてはと釜石師会会員一同、元気に、きっとこの苦境を乗り越えて遅しく、やり抜く事でしょう。

最後に、会員の皆様方の御健勝をお祈りいたします。

-21-

編集後記

八〇年代の初の新年を迎え、会員の皆様方には心も新たに臨床治療に、意欲を燃やされ努力と研鑽を積んで居られる事と思います。

例年なら、松の内に墨字版の会報が皆様の御手許に届いているのに、今回は私の怠惰から編集が遅れ御迷惑をお掛けしました。深くお詫び申し上げます。

今号は、文芸部門を広げて見ました処、佳い作品が集まりました。寄稿された方々に厚く御礼申し上げます。

尚、今後の参考にするため会報についての御意見や御要望などを事業部までお寄せ下さい。

(事業部は私と花巻の多田兼雄氏の二人です)

最後に、重ねて会報第十二号発行の遅延をお詫び申し上げます。会員の皆様方の御健勝をお祈りいたします。

越本 政男

昭和五五年一月二四日

-22-

社団法人岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

事務所 盛岡市高松四丁目一八番二二号 (〒〇二〇)

(渋川澄意方) 電話 (〇一九六) 六一一四五二一番

編集責任者 事業部長 越本 政男

発行人 理事長 石川 文治

昭和五五年二月十五日発行 会報第十二号

印刷 青木印刷

釜石市中妻町二丁目四番二五号

電話 (〇一九三) 二三一六六八七番

-23-

鍼灸医療に奉仕する医療器械の総合商社

<主営業品目>

○針及び針灸具

○消毒装置

○電気治療器

○温熱療法器

○治療室諸設備

○物療器具

有限会社 ヤマキン

〒034 青森県十和田市大字相坂字相坂 90

電話 01762 ③ 9138・③ 0813

郵便振替 盛岡 597 番